

平成24年度 第3回

四国地方整備局新技術活用評価委員会の開催 ～有用な技術が育成し、社会に還元されるために～

四国地方整備局は、有用な民間等の新技術の公共工事等への活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査及び事後評価等を実施するための『四国地方整備局新技術活用評価委員会』を以下の要領で開催いたします。

記

「平成24年度 第3回 四国地方整備局新技術活用評価委員会」

日時：平成25年3月4日（月） 13：30～15：30

場所：高松サンポート合同庁舎 13階 1306, 1307会議室

【審議事項 概要】

1. 新技術の事後評価（2件）

工事の中で使った結果を基に、技術进行评估します。

今後の工事で採用する時等に、この結果を参考にしていきます。

2. 新技術の試行実証評価（1件）

『土留部材引抜同時充填注入工法』について、技術の成立性等申請情報の妥当性を確認するために、活用現場で試行実証評価を行います。

3. 平成25年度四国テーマ設定技術募集について

平成25年度に技術募集する『維持管理技術』の応募要領について、確認を行います。

※「四国テーマ設定技術」とは、四国における具体的なニーズにマッチした、四国のこれからの発展に役立つ技術テーマ（災害対応技術、構造物保全技術、維持管理技術）を設定し、平成18年度より取り組んでいます。

<取材でのお願い>

新技術の審議内容については、各技術の秘密・特許情報等にかかる事柄があることから、取材は委員会の頭撮りのみとさせていただきます。なお、委員会終了後事務局にて取材に応じます。

平成25年2月26日

<問い合わせ先>



国土交通省 四国地方整備局

企画部

総括技術検査官

○ 施工企画課長補佐

港湾空港部

海洋環境・技術課長

海洋環境・技術課長補佐

こんどう

近藤

いわさ

岩佐

こまつ

小松

たかぎ

高木

ひでき

秀樹

たかし

隆

こうじ

浩二

こうぞう

耕造

（087-851-8061 内線 3451）

（087-851-8061 内線 3453）

（087-851-8061 内線 6571）

（087-851-8061 内線 6572）

※○：主たる問い合わせ先

～審議技術の概要～

< 事後評価 >

『高強度ロックピン付き排水枳はね上がり防止グレーチング蓋(KT-070069-A)』

雨水排水枳グレーチング蓋のはね上がり防止のため設けられているロックピンの強度・耐久性を向上させた技術である。

『作業船運航支援・施工管理支援システム(WIT-MVS)(KTK-090002-A)』

一般船舶と工事用作業船の動向をインターネット上で監視できる工事用運航管理支援システムで、従来の監視のために必要とされた専用機器が不要で関係機関との情報共有が容易となり、工事作業船の円滑な施工調整や海上交通の安全性を向上させた技術である。

< 試行実証評価 >

『土留部材引抜同時充填注入工法(SK-080012-V)』

土留部材の引抜きと同時に、当該土留部材の引抜き跡に対して充填注入を行うことによって、周辺地盤の沈下等の発生、隣接する家屋等その他の構造物に影響を及ぼさないようにする技術である。

※ 技術の詳細は、登録が完了しているものについては、以下のURLにて確認できます。
<http://www.netis.mlit.go.jp/EvalNetis/NewIndex.asp>

平成24年度 第3回四国地方整備局新技術活用評価委員会

議事次第

日時：平成25年 3月 4日（月）13:30～15:30

場所：高松サンポート合同庁舎 1306,1307 会議室

I. 開会

II. 挨拶 （委員長）

III. 議事

1. 平成24年度第2回新技術活用評価委員会の報告等

1-1 平成24年度第2回新技術活用評価委員会の報告等

2. 新技術の事後評価

2-1 四国地方整備局で事後評価を行う技術について

2-2 高強度ロックピン付き排水柵はね上がり防止グレーチング蓋

2-3 作業船運航支援・施工管理支援システム（WIT-MVS）

3. 新技術の試行実証評価

3-1 土留部材引抜同時充填注入工法の概要

3-2 土留部材引抜同時充填注入工法の試行実証評価

4. 平成25年度四国テーマ設定技術募集について

4-1 平成25年度四国テーマ設定技術募集（応募要領）

5. その他

V. 閉会

「四国地方整備局新技術活用評価委員会」設置趣旨書

1. 設 置 趣 旨

公共工事に関連した民間等による技術の開発は、公共工事の品質の確保や安全で安心な暮らしの実現、良好な環境づくり、快適で生活コストの安い暮らしの実現等に向けて、民間等の分野における技術開発が促進され、優れた技術が産み出され、さらには、改良が加えられ、社会に還元されていく仕組みを確立することが重要です。

四国地方整備局では、これまでにNETIS(New Tecnology Information System, 新技術情報提供システム)を用いて新技術の活用を推進してきたところではありますが、民間の技術開発の促進およびすぐれた新技術の活用による公共工事の品質の確保、コスト縮減等を強化・促進するために、学・産・官の有識者により構成される「四国地方整備局新技術活用評価委員会」を平成17年6月29日に設置しました。

当委員会においては、公共工事等への有効な新技術の活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査、現場での試行及び事後評価を実施します。

委員会の運営を通じ、四国地方における地場産業、地域特性を生かした地域貢献ならびに防災・減災が図れることが期待できるとともに、全国の公共工事等において新技術の活用促進を図る事により、民間における技術開発が促進され、良い技術が育成し、社会に還元されるスパイラルが確立され、公共工事のさらなる品質の確保、コスト縮減等が期待できます。

2. 新技術活用評価委員会 委員名簿 (敬称略:順不同)

(大 学 5名)

松島 学 香川大学工学部 教授(構造工学、コンクリート工学、信頼性工学、景観工学)

吉田 秀典 香川大学工学部 教授(構造工学、地震工学、維持管理工学)

山口 正隆 愛媛大学工学部 名誉教授(海岸工学、自然災害科学)

高木 方隆 高知工科大学システム工学群 教授(国土情報処理工学)

渡辺 健 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授

(コンクリート工学)

(産 業 界 3名)

(社)日本建設業連合会四国支部 技術委員会 委員長

(社)建設コンサルタンツ協会四国支部 企画委員会 委員長

(社)日本埋立浚渫協会四国支部 技術委員会 委員長

(研究機関 2名)

(独)土木研究所 材料資源研究グループ長

(独)港湾空港技術研究所 研究評価官

(整 備 局 8名)

四国地方整備局 企画部長 外7名